

(有) 静岡健康企画 ことぶき薬局 TEL055(977)6024 たまち薬局 TEL054(251)1678
 ひまわり薬局 TEL053(463)4312 みかん薬局 TEL053(584)2230 いちご薬局 TEL055(946)6430

点眼薬の使い方について

今回は、点眼薬の使い方に関する疑問を Q&A の形式でいくつか回答していくので参考にして下さい。

★質問 1；目薬を上手に点眼する方法を教えてください。

(回答) 手を流水とせっけんでよく洗い、次のいずれかの方法で点眼するとうまくいきます。

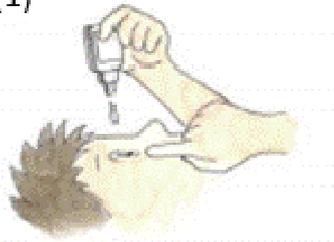
(1) 下眼瞼下垂法 (かがんけんかすいほう)

下まぶたを下に引き、容器の先がまぶたのふちやまつ毛に触れないようにして、確実に点眼します。

(2) げんこつ法

親指を中に入れ、げんこつを作り下まぶたにげんこつを当て、引き下げてください。その後、げんこつの上に点眼剤を持った手を乗せ安定させて、確実に点眼します。

(1)



(2)



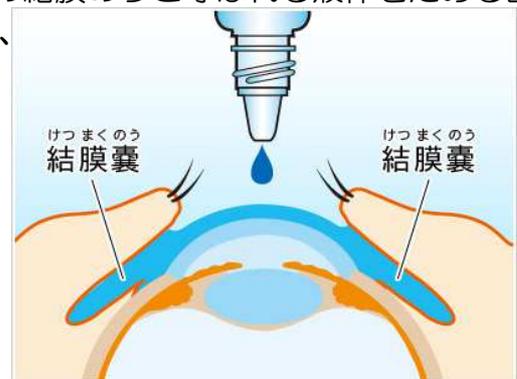
点眼後は、鼻や口に流れないように、1～5分目を閉じるか、または、目がしらを軽く押さえるようにします。最後に目からあふれた薬液は、清潔なガーゼやティッシュで拭き取ってください。(キサラタン点眼液などプロスタグランジン系と呼ばれる緑内障の目薬は、まぶたが黒くなることもあるため十分に拭き取ってください。また入浴前に点眼して入浴中に洗顔するのもいいでしょう。)

★質問 2；1回の点眼量は何滴が適切ですか？

(回答) 1回の点眼量は確実に点眼できれば、片眼1滴ずつで十分です。それ以上点眼しても、目の外にあふれたり、鼻に排出されたりします。目の中の結膜のうと呼ばれる液体をためる部分では、保持できる液量は、成人で20～30 μ Lですが、約7 μ Lの涙液が、常に入っています。

点眼剤の1滴は、30～50 μ Lとなっているので、その一部は目の外にあふれてしまいます。

(市販の点眼剤は、副作用が少なく効果のわかっている成分を、決められた濃度の範囲で使用しています。そこで、確実に点眼していただき、効果を十分発揮させるため、1回1～3滴の範囲で点眼量を設定しています。)



★質問 3：2 種類以上の目薬が処方されました。

どのくらい点眼の間隔をあげればいいでしょうか？順番はどうすればいいでしょうか？

(回答) 点眼の間隔は少なくとも 5 分空けるようにしてください。
ただし、医師・薬剤師の指示がある場合はそれに従ってください。
理由は、結膜のうにたまった点眼液が完全になくなるのに、約 5 分強かかるため、5 分以上空ける必要があるからです。

点眼の順番は一般的には、

- ①水性点眼剤（緑内障以外）②水性点眼剤（緑内障）③懸濁性点眼剤④油性点眼剤⑤眼軟膏の順となっています。

下の表に主に当医療機関で使用の点眼剤を例にしてありますので参考にしてください。

主に当医療機関で使用の点眼剤	
	薬品名
①水性（緑内障以外）	アズレン点眼、ゲンタマイシン点眼、サンテゾーン点眼、ノスラン点眼、ヒアロンサン点眼
②水性（緑内障）	ラタノプロスト点眼、キサラタン点眼
③懸濁性	カリーユニ点眼
④油性	インドメロール点眼（採用ではない）
⑤眼軟膏	エコリシン眼軟膏、ネオメドロールEE軟膏

★質問 4：目薬はどこに保管すればいいですか？

(回答) 冷所または冷蔵保管の指示があるものは、凍結を避けて冷蔵庫で保管してください。
(特に冷蔵庫のドアポケットに保存するといいです。) その他は、直射日光の当たらない涼しい場所（冷蔵庫も可）に保管してください。
遮光の指示がある場合は必ず添付の袋に入れて保管してください。
外出時に携帯する場合は、車の中など高温になる恐れがある場所には保管しないでください。



★質問 5：開封してからどれくらいの期間使用できますか？

(回答) 使用方法・保管方法を守り、適切な期間内（医療用点眼剤、眼軟膏は開封後 1 ヶ月以内、市販の点眼剤は 3 ヶ月以内）に使用して残っていても捨ててください。
点眼剤の中には、主成分の安定性又は、使用中の汚染を考慮して、開栓後、1 週間以内又は 10 日以内などの期限の短い製品があるので、その場合は表示の期限を守ってください。

★質問 6：なぜ懸濁性点眼剤は必ず立てて保存しなければいけないのですか？

(回答) 懸濁性点眼剤は、有効成分の小さな粒が薬液に散らばった状態にあります。横置きやキャップを下にすると、粒が集まって点眼液が出るノズルの穴に詰まる場合や、容器の底に沈んだ粒が隙間にさらされて容器内表面に付着したりこびりついたりする場合があります、あるためキャップを上にして立てた状態で保管してください。



参考にしていただけましたでしょうか？その他、わからないことがありましたらお気軽に各薬局に相談してください。

(参考) 点眼剤の適正使用ハンドブック (文責) 三島共立病院 薬剤科 関場